

# 中国の「総合実践活動」カリキュラムの 効果に関する研究

## —中国の「総合実践活動」カリキュラムの効果に関する研究—

MA Weina

本研究の目的は、中国の「受験教育から素質教育への転換」という教育改革の中で目玉としての総合実践活動カリキュラム効果を「隠れたカリキュラム」の視点から明らかにすることである。

本研究では、まず序章において、先行研究の検討をとおして、中国の総合実践活動における先行研究において、「隠れたカリキュラム」の研究視点がなかったことを明らかにした。そこで日本の教科等の「隠れたカリキュラム」研究の先行研究を検討し、それらが「隠れたカリキュラム」の視点から、カリキュラム経験、すなわちカリキュラムの効果を明らかにしていることを論じた。そこから本研究では、顕在的カリキュラムの「隠れたカリキュラム」を一体的に分析できる分析視角が必要であるというスタンスを確認し研究に着手した。

第1章では、「隠れたカリキュラム」の理論的な枠組について検討した。近年は、「隠れたカリキュラム」という概念が示す通り、子どもが学ぶ内容は多面的なことが指摘されている。「隠れたカリキュラム」の理論的検討から分析視角を整理するとともに、田中の「カリキュラムの多層性」と「教育課程のプロセス・モデル」に基づいて、カリキュラムの効果を解明する仮説モデルを構想した。

この仮説モデルに基づき、第2章において、「総合実践活動」の「制度化されたカリキュラム」の位相の分析を行った。

(1)総合実践活動の特徴は、①総合性、②自主性、③実践性、④開放性、⑤連続性という5つであることが明らかにされた。また、総合実践活動は「三級課程」として、柔軟性を持っている。

(2)総合実践活動の中学校の目標は、「価値認識」「责任担当」「問題を解決する能力」「創意によって物作り」から構成されている。

(3)総合実践活動の内容は、「考察探求」、「社会サービス」、「設計と制作」、「職業体験」という4つの方面から構成されている。

第3章では、学校現場における総合実践活動の「計画されたカリキュラム」と「実践されたカリキュラム」を検討した。

(1)「計画されたカリキュラム」としての「総合実践活動」は、①他の教科と関連して、子どもたちは各教科で学んだ知識を総合的、主体的に活用して、全面的に発展を追究している、②「労働技術」と「情報教育」を単独科目として実施している、③学校周辺の地域の素材の便利さを生かして、地域で体験活動や地域の人々との交流活動を通して、総合実践活動の教育力を一層アップさせている、④学校は従来の団体活動、団体会、様々な行事など「非指定領域」を加えて、総合実践活動の類型が多様化されている、という4つの「計画されたカリキュラム」の独自の方式を明らかにした。

(2)「実践されたカリキュラム」としての「総合実践活動」は、①実施はⅠ単独科目として実施する、Ⅱ他の科目と関連して実施する、Ⅲ地域の素材を生かして実施する、Ⅳ非指定領域も実施するとなった4つの方式に分散している、②子どもの思想意識を培うことを重視している、③教育内容はポリテイクスが含まれる、といった3つの特徴があることを明らかにした。

第4章では、総合実践活動の「経験されたカリキュラム」を検討した。因子分析によって、総合実践活動の「経験されたカリキュラム」の内容を支える因子として、「責任感」「協力効果」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「生活能力」「社会関心力」と命名した6因子を確認した。ここで析出した因子を、「制度化されたカリキュラム」との関連で分析すると、以下の3つにカテゴライズできた。具体的には、①「制度化されたカリキュラム」が子どもの「経験されたカリキュラム」を規定したと想定される因子として「問題解決能力」と「生活能力」、②「制度化されたカリキュラム」に明示されないレベルで子どもの「経験されたカリキュラム」を構成したと想定される因子として、「コミュニケーション能力」と「社会関心力」、③「制度化されたカリキュラム」に明示されるレベルと明示されないレベルを融合して、子どもの「経験されたカリキュラム」を構成したと想定される因子として、「責任感」と「協力効果」である。すなわち、「経験されたカリキュラム」は、「制度化されたカリキュラム」に明示されたレベルと明示されないレベルの両者の総体であることを明らかにした。

以上を通して、本研究では終章において、以下の2点を結論として論じた。第一に、「隠れたカリキュラム」を含み込んだ、総合実践活動のカリキュラム効果として、学習者は、「責任感」「協力効果」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「生活能力」「社会関心力」の経験内容構造を有する。総合実践活動において、生徒はこれらの枠組みでカリキュラムを経験しているといえる。第二に、「総合実践活動」のカリキュラム経験構造の理論モデルを提出した。すなわち、そのカリキュラム効果は、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラムの総体から確認できる。